



いまいは今
vol.123

発行 今井町町並み保存会
発行日 平成22年9月1日
電話 0744-22-1128
<http://www.3kcn.ne.jp/~imaicho/>
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp

◇ご意見・ご感想は
今井まちづくりセンターまで

今井灯火会



「灯りが町を明るくします」をテーマに、今夏も今井灯火会が8月7日に実施されました。

天候にも恵まれ、当初より予定の地区・イベントに加えて、当日の点灯協力もいただきました。計約六千灯の蠟燭の光が、今井の町並みを一層趣深く浮かび上がらせます。

灯火器具を中腰で並べて一つ一つ点灯して下さった各地区担当の皆様、費用の面でご協賛いただきました。ありがとうございました。また、



七夕の飾りつけは今井町なごみ会の方々が担当してくさいました。

た春日神社での七夕飾りや冷やし飴水、今西家前の灯ろう流しなど、多くの団体と関係者の御協力と心意気で今井の夏の風物詩を楽しみ盛り上げていただきました。ありがとうございました。



今西家横の復元堀で行われた灯ろう流しの様子です。幻想的な景色を醸し出していました。

のこもった灯りが一つでも多く灯火され、町民の結束が強まりますよう、来年の灯火会もどうかよろしくお願いたします。

もっと多くのお客様に見て満足していただく灯火会に、また何よりも今井町民のそれぞれの思い



多くの町の人たちが蠟燭の点灯に協力してくださいました。(写真は南御堂筋の様子)



権原おはなしの会の皆さんです。

今回は今井まちや館でおはなしの夕べを開催してくださった「権原おはなしの会」の山中山さんにもコメントをいただいております。

「昨年に引き続き、灯火会でおはなし会をさせていただきます。今年も小さな子どもにも楽しんでもらえるプログラムを考えました。前半は、年配の参加者が多かったので、満足していただけるか心配

がなかったので、満足していただけるか心配

でしたが、古き良き町並みと同じ暖かさをお持ちの聞き手に励まされ、気がつけば語り手も時間超えの大熱演となりました。闇の中に美しくゆらめく灯ろうと今井の町をこよなく愛する方々の中で語る機会を与えていただき、有難く思っています。」



おおくの人たちが話に聞き入っていました。

ラジオ体操

今年も順明寺境内にて「お寺でラジオ体操」が開催されました。

早朝から40人を越える町の人があつまり、本堂に合掌したあとにみんなでラジオ体操をしました。

順明寺の多田大順さんによると、このイベントは門徒さんからの提案で昨年からは始められたそうで、ラジオ体操を楽しむとともに子供たちにも仏様に手を合わせてほしいとの願いがあるそうです。

来年も開催する予定なので、今年と同様にぜひ多くの人たちに参加していただきたいと

のことでした。



本堂の前で体操をしています。(体操の後には本堂で講話もありました。)

日待講

今井では、町内で日待講を行っているところがあります。日待講は名前の通り、日を待つ、つまり夜から始め、翌朝の日の出まで行う行事です。

今回は御堂筋の町内の日待講を紹介します。文献としては明治18年からの記録が残されており、町内の8軒で隔月に行われています。現在は4軒のお家で年5回行われています。

講は持ち回りで行われており、当番の家は「三社託宣」の掛け軸を床の間に飾り、お酒、するめ、昆布、菓子などをお供えます。夜7時半、当番の家に正装である和服を着た講

衆が集まります。お神酒を全員でいただき、食事が始まります。食事はすべて当番の家で用意します。深夜2時まで歓談していた時期もありましたが、最近では夜10時にお開きにするそうです。

日待講はもともと伊勢神宮への代参(町民全員の代わりに代表者が参詣し、お札を持って帰ってくる)が始まりだと言われています。御堂筋の日待講でも皆で集めたお金の一部を使って、講衆全員で、出雲などへ旅行に出かけています。日待講は宗教的な意味合いもありますが、町内の親睦を深める意味合いも強かったようです。

※三社託宣…天照大神(正宣)、春日大明神(慈悲)、八幡大菩薩(清浄)の教えを漢文で記している。

(この記事は前号紙面の都合で掲載することができなかったもので、今回改めて掲載しました)

いまい往来

9月12日(土) 奈良まほろばソムリエ検定体験学習プログラム「大和今井を歩く」

編集後記

今回は「灯火会特集号」になっています。多くの方々の協力により、広がりが見えてきて今後が楽しみです！
情報掲載にしていきたいですので、どんどん原稿提供をお願いします。